

文転、国立諦め、地元離れ、大学諦め、浪人…

# ありがち進路の迷い、 どう受け止める？

子どもたちが突然言い出す進路変更。保護者としては、いろいろな心配になることと思います。そこで、3年生になって急に言い出しがちな目標変更のケースに、現役高校教師はどう対応されているのかがありました。慌てないために、ぜひ参考にしてみてください。

回答者



及川俊浩先生

聖下三ツ学院高等学校  
仙台の私立女子高である同校キ  
ャリアデザインコースでキャリアデ  
ザインを担当。担当教科は歴史。



柳澤隆規先生

神奈川県立希望ヶ丘高校  
長年、神奈川県立百合丘高校に  
勤務し、2014年より現在の高  
校に。担当教科は数学。

取材・文／清水由佳 写真／広路和夫

ありがち  
進路の迷い

1

## 3年生になって、志望学部を理系から文系に変更

こう対応する

なぜ変更したいと言い出したのか  
その背景が重要になります

理系コースの生徒の文転はよくあります。大学や学部によつて、数  
学で受験できるところもけっこう  
あるので、受験科目という観点か  
らは、それほど心配はないよう  
です。ただし、なぜ文系に変更し  
たいと言いつたのかによつて、注  
意が必要だと先生方は指摘します。  
「数学Ⅲになると、いきなりレベ  
ルが上がつてなかなか点数が上げ  
られなくなり、『自分は理系じゃ  
ないのでは』と思い始める生徒が、  
けっこういます。ところが、単に  
点数が伸びないから…という逃げ

の姿  
勢だとうまくいかないことが多い  
ですね。文系は暗記物が多いので、  
何とかなるだろうと安易に考え  
るのですが、それだけでは同じよ  
うに伸び悩み、もつと入試が楽な  
ほうへ…と、安易に流され、結局  
何がしたかったの？となりやす  
いんです（柳澤先生）  
そこで柳澤先生は、急な進路変  
更を言い出した生徒には、必ずメ  
リット・デメリットを書き出すよ  
うにアドバイスするという。  
「理系・文系、それぞれに進んだと  
きのメリット・デメリットを、将来

的なのも含めて箇条書きでいい  
ので書かせてみます。目先のこと  
ばかりではなく、将来やりたい仕  
事や目標など未来から逆算する  
ことも大事です。そうすると、理  
系のメリットばかりがたくさん出  
てきて、自分はやっぱり理系に行  
かないとダメだなと気づくことも  
けっこうあります。気づけば、『や  
るしかない』と覚悟が決まり、勉  
強の態度も変わってきます」（柳  
澤先生）  
及川先生も、「諦め癖がつくほ  
うが、問題」と指摘します。  
「成績が伸びずに文系へ…と思っ  
ているのであれば、できるよ  
うな方法をまず考えることが大事

ですよね。好きこそもの上手な  
れ、と言いますが、まずはその世  
界が好きか嫌いか。そこをしか  
り考えてほしいと思います。単  
に合格が目的ではなく、入学後の  
こと、さらにその先の社会人1年  
目くらいになったところのこと、そんな  
キャリア的発想も欠かせません」  
（及川先生）  
編集部が高校の先生方に行つた  
アンケートでも、ほとんどの先生が  
「逃げではないか」を確認する  
と言います。一時的に成績の伸び悩  
みに悩んでいるのか。それとも本  
当にやりたいことが見つかったのか。  
そのあたりを、ていねいに聞いてみ  
ることが大切なようです。

こんな意見もありました！

「私自身、3年生の夏休み明けに獣医学部から文学部国文学科に志望変更しまし  
た。夏休みに読んだ源氏物語の心理描写に魅了され、大学で源氏物語を研究す  
ると決めました。先生には『何考えてるんだ』と叱られましたが、受験は私大で英・国  
数で受けました。大学時代は本当に楽しくて、今も源氏物語が大好きです。文転す  
る生徒には、そんな話もしています」（大阪府立山本高校・清水直樹先生）

「受験科目が、英語・国語・社会or数学のようであれば、対応はできると思います。  
ただ、逃げの姿勢での文転は勧めません。あとあと後悔することが多いように感じま  
す」（公文国際学園高等学校・伊東光弘先生）

※アンケート協力／2015年1月に、「ありがち進路の迷い」に関して実施した『キャリアガイダンス編集部』編集協力委員の先生（回答者40名）の回答より抜粋。



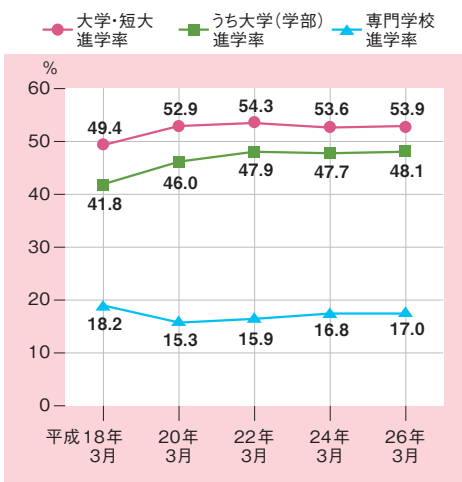
## ●平成25年度就職状況調査

(平成26年4月1日現在 文部科学省・厚生労働省調査)

	就職希望率	就職率	前年度同時期の就職率
大学	71.5%	94.4%	93.9%
内国公立	53.1%	96.7%	95.3%
内私立	80.6%	93.7%	93.4%
短期大学	79.0%	94.2%	94.7%
専修学校	88.8%	93.0%	94.1%

## ●高等学校卒業後の進路状況

(平成26年度文部科学省「学校基本調査」より)



ありがち  
進路の迷い

2

# 大学進学をやめ、専門学校に進路変更

逃げばかりではなく  
昔からの思いが込められていることも  
こう対応する

大学全入時代と言われるようになってきて、大卒の就職も様々です。大学を出ただけでは将来を保証されるものではないということは十分理解しているつもりでも、やはりそこは心配になるのが親心。ちなみに、文部科学省と厚生労働省が調査した2014年3月卒の大学、短大、専門学校の就職状況調査(4月1日時点)では、就職率は大学94・4%、短大94・2%、専門学校93・0%と、いずれも大差はありませんでした。「これも、先ほどの文転のケースと

同様、本人がどういう考えで専門学校と出しているのかどうか次第です」(及川先生)  
中には、成績が伸び悩んで一般入試から逃げ出したいという思いで安易に専門学校と言っていることも少なくありません。そういう場合は、理系から文系のケースと同じように、もともとの問題である「どうやったら成績を伸ばせるか」を考えることが先決だとか。けれども、中には、この時期だからこそ、本来の思いを勇気をもって口に出していることがあります。

「保護者の希望に沿って何となく大学を志望していたけれど、どうにもモチベーションがあげられない。本当は、好きな動物や美容の専門学校にずっと行きたかった。そう訴えてくる生徒もいます。そんなときは、とりあえず口論になろうが何だろうが、まずは自分の思いや学校を調べた結果を、しっかりと保護者と話し合うようにと勧めています」(及川先生)と言います。  
同様に、柳澤先生も、「大学の建築学部を受けると言っていた生徒が、3年生になって放送系の専門学校に行きたいと言ってきたことがあります。そのときも、それぞれの選択のメリット・デメリットを書かせてみたら、放送系のメリットが圧倒的に多く、本気が伝わってきました。そこで、具体的にオープンキャンパスに行き、就職のことも調べてみるよう勧めました。結果、学校見学でやっぱり建築は違う、放送系がむしろそうだと専門学校に変更。今は、夢をかなえてテレビ番組の制作会社で充実しているようです」と言います。  
保護者にとっては寝耳に水のような話でも、子どもたちの中では

### こんな意見もありました!

「専門学校は将来の自分の仕事に直結する学校なので、教育内容をしっかり確認し、卒業後の就職や資格の取得状況について調べておくことが必要。一概に大学のほうがいいとは言えない場合もあります。将来の希望の仕事に就くためには専門学校のほうが有利な場合もあります」  
(兵庫県立阪神昆陽高校・井上仁志先生)

「大学か専門学校かの選択で悩む例は少なくありません。最終的には、オープンキャンパスなどで両者を実際に見て決めるのがよいとアドバイスしています。最近では、専門学校の評価が高まり、あえて大学ではなく、4年制の専門学校を選ぶケースもあります。「アカデミック指向」なのか、「実学指向」なのか、しっかり考えるよう指導しています」  
(千葉県立茂原樟陽高校・宮澤勝先生)

何年も溜め込み、「ここで変更しないと後悔する」という切実な思いも込められている可能性があるというのです。まずは、思いをしっかりと受け止め、一緒に学校見学などに行ってみてもいいのではないのでしょうか。

## 部活が予想外の好成績。夏を過ぎても引退できない

こう対応する

**時間があるから勉強するとは限らない  
毎日、少しずつでも勉強する習慣を**

2年生ですべて部活を引退させるという学校もあるようですが、時間があるからといって受験勉強ができるかというと、それはまた別問題のようです。

「私は高校時代野球部で、7月下旬に大会に負けて引退。夏休みに時間がたくさんできたのはいいのですが、かえって時間の使い方が下手になり、勉強があまり進まなかった経験をしました。むしろ、部活をやっていたときは時間がないので30分でも集中して、質の高い

勉強をしていたと思います」と、

柳澤先生。ご自身の経験だけでなく、顧問をしていたソフトボール部でも、早めに引退した3年生がボカンと空いた時間を持て余し、だらけている様子を間近に見ていたといいます。

「時には、部室に集めてしばらくみんなで勉強できるようにしたこともあります。部活をしていた生徒は、時間がない中で頑張っていたので、変に時間ができると切り替えがうまくいかないことがあるん

ですね。逆に、なかなか引退できない子たちは、質の高い勉強をしている。どちらにしても、保護者が

辞めさせると、『本当はやりたかった。やつていたらこうだった』と、勉強が手につかないことも。応援してあげてもらえればいいですね」

（柳澤先生）  
そのかわり、15分でも30分でもいいので、毎日机に向かう約束ができると効果的だとか。「受験勉強は体力がいるので、少ない時間でも、毎日机に向かつて習慣化することが重要です。時間は徐々に伸ばしていけばいいのですから」とアドバイス。

及川先生も、「受験だけを考えると勉強に専念させたいと考えますが、将来的に、打ち込んだものが本人の力になる可能性は少なくありません」と言います。ただし、最近では受験も多様化し、AO入試や推薦など、8月、9月に試験が実施されることも。特に、部活などに打ち込んだ生徒は、それらの試験を活用することが少なくありません。

「本人たちは大丈夫と軽く言っていることもありますが、試合とのスケジュールが本当に大丈夫なのか、その確認はしておく必要があるでしょう」（及川先生）

### こんな意見もありました！

「運動部の生徒は集中力があり、受験モードに切り替えた途端に、があっと伸びていくケースもある。一概にダメとは言いきれない。『隙間時間をうまく使って勉強しよう』と声をかけています」  
（横須賀市立横須賀総合高校・田熊豊先生）

「サッカーなど引退が遅い種目はあります。正直、浪人する可能性も含めて本人次第です」  
（立命館宇治高校・酒井淳平先生）

「頑張ってほしいと思える生徒に、進学への取り組みとそれ以外の活動がかぶることは、むしろ当たり前。限られた条件下でどこまでできるか、自己管理能力を身につけられるチャンスでは？」  
（広島県立廿日市西高校・前平芳延先生）



ありがち  
進路の迷い

4

## 受験先を海外の大学に変更。4年間留学したいと言い出す

こう対応する

**今でなければいけないのか  
話してみることから**

急に進路変更を言い出す場合、大きくは受験勉強の行き詰まり感から発している場合と、本当はずっと思っていた本音がこのタイミ

ングで噴き出してきたという場合があるようです。いずれにしても、まずその思いを受け止めて話を聞くことが大切で、とりあえず

「留学をするとしたら」の情報収集を一緒に行うことでも、本音が見えてくることもあるようです。「衝動的な希望なのか、前から考えてやはりこのタイミングで留学したいのかを聞いていきます。そのため準備をしてきたのか、ま

た、これからのようなことが必要なのか、情報提供しつつ、自分でも調べてもらいます」と、柳澤先生。その過程では、「日本の大学での留学制度なども多くあることを伝え、本当にこのタイミングなのかどうかを探っていきます」（柳澤先

ありがち  
進路の迷い

5

## 地元を離れて進学したいと言いつつ

こう対応する

どこで学ぶかよりも  
何を学ぶかをしっかり考えたい

リクルートが高校生を対象に実施した調査「進学センサス2013」によると、志望校を検討した際に地元に残りたいと思う生徒は、大都市圏もそれ以外もともに、年々増加傾向にあります。しかし、最近では、地域と連携してユニークな取り組みを行う学校や、特殊な学科などで特色を出している地方の大学などがあり、大都市の大学に出るばかりではなく、緑もゆかりもない地方の大学に進学するケースも出始めています。

そのため、「何でそんなところまで行くの?」というような進路を出してくる生徒もいるようです。「地方都市の女子高という土地柄もありますが、保護者はどうしても保守的な考えに陥りがちです。しかし、進路選択は、本当に多様化しています。そういうことがちゃんとわかっている子どもほど、いろいろな進路を選んでくる傾向があるように思います。保護者の時代にはなかったようなカナカ職業者も多くありますし、学

部・学科名も聞いたことがないようなものがたくさんあります。何が何でも『地元』というのではなく、本人の意志をしっかりと聞いてあげてほしいと思うことがあります」(及川先生)

また、首都圏でも油断禁物。「てっきり都内に通うと思っていたら、自分が志望している学部だけ地方のキャンパスだとか、最初の2年間は地方のキャンパスに行かなくてはいけなかったか。そういう場合も、自分がやりたいこと、保護者が勧める進路先、それぞれのメリット・デメリットを列挙してみるように伝えます」(柳澤先生)

こんな意見もありました!

「留学を考えるのに、言い出した時期はあまり考慮する必要はないと思います。今頃になって…だとしても、それが本人の確固たる意志に基づくものであればチャレンジすればよいと考えます。ただ、受かりそうな大学が見当たらず『逃げ』で留学を言い出した場合は熟考するよう勧めます。あまり納得できない大学からしか合格通知をもらえなくて何となく海外のほうが聞こえがいいし…といったような虚栄心が見え隠れする場合は、留学は勧めません」

(滋賀県立守山高校・堀浩司先生)

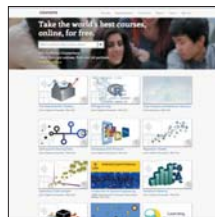
「希望しているだけでなく、生徒自身が自分でどこまで調べ上げることができるか、またはできているかがポイントだと思います」

(東大阪大学敬愛高校・胡田裕教先生)

「本当に留学してついていけるのか、留学しても仕事につながらないのではないかと、十分指導したいところです。私個人としては、MOOC(※)などで自分が外国の大学で学ぶことを体験させてみて、考えさせたいです」

(大阪府立枚方高校・片山徹先生)

※MOOC(Massive open online course):世界中の誰もが受講可能なインターネットを通じて無料で公開されている講義のこと。海外の大学の講義が公開されている代表的なものとしては、「Coursera」や「edX」などがある。



<https://www.coursera.org/>



<https://www.edx.org/>

### ●志望校検討時の地元選択志向(大学進学者・単一回答) 県規模別時系列推移

		残りたい		どちらでもよかった	離れたい		無回答
		ぜひ地元に残りたいと思っていた	できれば地元に残りたいと思っていた		できれば地元を出たいと思っていた	ぜひ地元を離れたいと思っていた	
大都市圏	2013年	42.3%	18.5%	19.2%	4.3%	4.1%	11.7%
	2011年	40.3%	16.1%	23.6%	6.0%	3.9%	10.1%
	2009年	34.3%	15.8%	25.4%	5.9%	4.1%	14.5%
大都市圏以外	2013年	19.5%	15.2%	25.5%	15.8%	14.2%	9.9%
	2011年	17.6%	14.6%	24.6%	17.8%	16.7%	8.7%
	2009年	14.0%	13.0%	23.9%	17.1%	16.0%	16.0%

※大都市圏: 東京、神奈川、千葉、埼玉、愛知、大阪、京都、兵庫

「進学センサス2013」(リクルート)より

こんな意見もありました!

「同じような理系学部を志望し、地元と地方の学校に進学した二人の生徒。地方に行った生徒は、3人に1台の実験器具があり何度も自分で実験を行い、地元に進学した生徒の大学では30人に1台しか実験器具がなく実験は見ただけ。そのような違いもあるので、施設や教員スタッフ、生徒数、授業料、生活費など、いろいろな要素を考えるべき」

(滋賀県立守山高校・堀浩司先生)

「大学での学びをきちんと調べて入れれば、地元以外への進学であっても、入学後のモチベーションが続くことも」

(沼津市立沼津高校・谷野公彦先生)

生)だとか。

社会のグローバル化の一方で、日本の若者の海外留学が減少していることが問題視されています。2013年には、政府が海外への留学生を倍増させる計画を発表しました。それを受けて、文部科学省と民間企業が官民協働プロジェクトとして、日本の大学生などを対象に、留学支援制度も実施しています。大学に進学してか

ら世界に出るチャンスも多くあることを踏まえ、それでも今なぜ海外の大学なのかをしっかりと考えられるようにしていくことも大事なようです。

「しっかりと進路を考えたいうえでの結論であれば、留学までの準備、例えば語学の勉強や、現地の情報収集、生活習慣などについての学習を応援したいと考えます」(及川先生)

ありがち  
進路の迷い

6

## 国公立大学を諦め、私立大学に志望変更

こう対応する

やりたいことが明確になったのか  
受験からの逃げなのか次第

急に国公立大学から私立大学に志望変更を言い出したときも、受験からの逃げなのか、やりたいことが明確になったのか次第だと、先生たちは指摘します。

「専門学校への変更などと同じように、受験シーズンが近づくにつれて自信がなくなり、国公立に合格できないのなら、いつそのこと私立だけに絞ってしまつて受験科目を減らしたいと考える生徒も少なからずいます。そのため、これを言

い出した時期にもよりますが、受験時期が近いのであれば、私立も受けることを前提に、国公立受験もあきらめないよう励まします。ただし、受験まで時間があつて、本当に私立に行きたくなつてい

るであれば、私立に絞つて受験科目を減らす選択も考えていきます」(柳澤先生)

いとか、この先生のもとで学びたいなど、理由が明確であれば応援します。しかし、単に学力的な悩みなどの場合は、国公立と私立の併願も勧めながら、面談などを密にしてモチベーションが下がらないようにサポートしたいと思います。

そんな受験勉強からの「逃げ」の選択は、例えば推薦を安易に受けてしまつたといったことでも見られるとか。

つとできたのに、ほかの大学に入っていれば…と、そんなことを思いながらの学生生活はつまりません。行けるところではなく、行きたいところを選ばせてあげたいと思います」(柳澤先生)

ちなみに、昔であれば「国公立」学費が安い、私立「学費が高い」という傾向が明確で、保護者にとつては急に私立を受けると言われると、金銭的に心配になりがちでした。しかし、最近では、国公立と私立の学費はかなり近づいていて、学校・学部による違いのほうが大きいようです。

### ●初年度納入金の比較

	授業料	入学金	合計
国立大学	535,800	282,000	817,800
公立大学(地域内)	537,857	231,133	768,990
公立大学(地域外)	537,857	397,721	935,578
私立大学(学部)	860,072	264,390	1,124,462

※国公立は、文部科学省令による標準額なので、学校によって差がある。  
※公立大学は文部科学省「平成26年度学生納付金調査」、私立大学は文部科学省「平成25年度私立大学入学者に係る初年度学生納付金平均額調査」より。  
※いずれも、このほかに、施設費や実習費、諸会費などがかかる場合がある。

ありがち  
進路の迷い

7

## 合格が不安になつてきて、浪人も含めた2年計画を考え始める

こう対応する

浪人も考え始めると  
かなりの確率で浪人します

そもそも、昨今は浪人する生徒自体が減少傾向。文部科学省の学校基本調査でも、大学・短大への現役進学率が、平成26年度は53.9%。平成元年頃は約30%前

後だつたので、現役率が急上昇しているのがわかります。それでも、やはり、受験勉強がうまくいかないと「浪人」を口にし始める生徒がいるのも事実です。

「もし志望校に合格しなかったら浪人すると決めている生徒は、多くの確率で浪人します」と、柳澤先生は警鐘を鳴らします。

「なので、結果が出るまではあくまでも浪人のことは話しませんし、本人も考えるべきではないと思います」(柳澤先生)

### こんな意見もありました!

「正直なところ、国公立と私立の学費格差は昔ほどではないうに、国公立+ひとり暮らしより、私学+自宅通学のほうが、金銭的には楽な場合もあります。生徒の希望や将来を考え、何が何でも国公立という考え方に少し疑問を感じることもあります」(立命館宇治高校・酒井淳平先生)

「理由次第。たくさんの科目を勉強する負担が嫌だからという理由では失敗することが多い。その私立大学の内容を調べ、目標をはっきりしているならOK。また、保護者もそれでいいなら可能だと思います」(岡山県立鳥城高校・杉山義則先生)



## 保護者の方々のメッセージ

いろいろ揺れる生徒の前に、保護者としては何とか助けになることをしてあげたいと思うもの。自分の経験や知識などからアドバイスすることもあるでしょう。高校の先生たちも、その思いは一緒。でも、指導のプロである先生たちでさえ、アドバイスのつもりが指示になり、生徒の選択を邪魔することが何よりも怖いとおっしゃいます。

「こっちはほうがいいねとか、絶対に言わないようにしています。もしも言ってしまうと、子どもたちはそれを選択し、将来的に『自分が選んだわけじゃない』という言い訳をしてしまいます。だから、情報はいろいろ提供しても、必ず生徒自身に選ばせる。文系・理系なども、文系のほうがいいよとは絶対言いません。必ずメリット・デメリットなどをたくさん書き出し、自分で考え、選び、

決断してもらいたいと考えています」(柳澤先生)  
それは保護者にとっても重要な姿勢なのかもしれません。そういう姿勢を保つためには、子どもたちの状況をしっかりと把握しておくことも助けになりそうです。状況がわかっていれば、多少のことには動じることなく、話を聞いてあげることができそうです。その点、及川先生は、子どもたちが突然言い出す「進路の迷い」への対処には、生徒の日頃の成績状況を理解していることも大きな助けになるといいます。

「定期考査の結果だけでなく、模擬試験の成績の推移がわかっていると、子どもがどのような状況にいるのかがわかりやすくなります。ところが保護者にはなかなか模擬試験の結果を見せませんよね。そこは、多少うるさながらも聞いてみるというと思います。そういう話を頻りにしていると、何か変化が起こった時に、すぐ会話ができておもしろいです。何で？ どうしてそう思ったの？ という投げかけで本音を聞いてあげてほしいと思います」(及川先生)

### さらに、先生たちからのアドバイス

「家庭の金銭的事情で急に進学を断念せざるを得なくなった場合、対応が難しいです。金銭的な支援機関を模索しつつ、生徒の精神的な支援を優先するように心がけています。不確実な時代ではありますが、教育資金はできる限り計画的に蓄えていただきたいと思います。また、奨学金など借りる場合も、後々の返済のことを考えた借り方を意識してもらえればと思います」

(東大阪大学敬愛高校・胡田裕教先生)

「浪人が必ずしも向かない生徒もいますので、そういう生徒には別な大学の検討も勧めます。けれども、個人的には、ぎりぎり最後までなぜ粘らないのかという思いもあります。最近では、保護者の方のほうで、苦しんでいる子どもを目の前にして、『入れるところでいいじゃない』とつい言ってしまうがちなのですが、それでは諦め癖がついてしまいます。もう少し、厳しさを乗り越えていく経験をさせてあげたいという気持ちがあります」(及川先生)

受験は、二つの大きな試練。そこを頑張つて乗り越えた経験が、その後の人生への自信や前向きに取り組む姿勢につながりそうです。

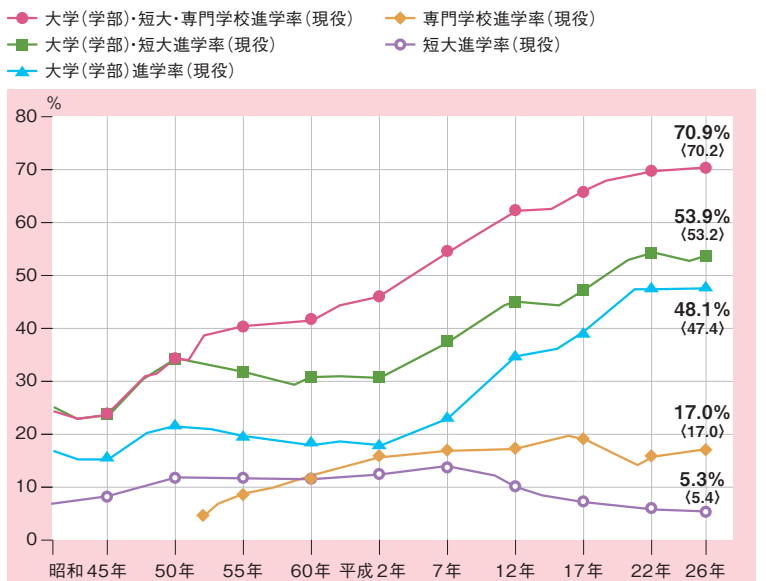
### こんな意見もありました!

「浪人して成績が伸びるかどうかは、生徒個々の性格によっても違います。浪人して頑張ることができるのか、よく考えさせ、最終的に自分で判断させます」(兵庫県立阪神昆陽高校・井上仁志先生)

「浪人してまで志望校を目指して頑張る気力・体力・意志などがあるかどうかです。また、浪人したからといって、学力がホップ・ステップ・ジャンプのように、ビルをひとつ跳びできるほど伸びるわけにはいきませんと力説します」(沖縄県立八重山商工高校・箕田成範先生)

「医学部など職業に関連する理系学部を目指すものの、大学にこだわってなかなかうまくいかない生徒がいる。一方で、将来のために学ぶべきことを優先して、大学名にはこだわらず、受かった学校で着実にその道を歩んでいる生徒もいる。大学が優先なのか、なりた職業が優先なのか。そもそも何のためにその仕事をしたいのか。そういうことを、しっかり考えてもらいたいと思っています」(北海道札幌北高校・中道洋友先生)

### ● 高校卒業者の進学率(現役進学率)の推移 (平成26年度文部科学省「学校基本調査」より)



※ ( ) は前年度の数値